

TAIYO KOKI
THE GRINDING MACHINE COMPANY

第**33**期

Business Report

2017年1月1日～2017年12月31日



株式会社太陽工機

証券コード 6164

企業理念

私たちは、
先進的技術を駆使した
製品を創造し、
精密加工を通して
世界の製造業の発展に
貢献する

経営方針

1 内外の法令を遵守し、
フェアな企業活動に徹する

2 イノベーションを追求し、
最先端の技術力と提案力で
社会に貢献する

3 企業価値を高め、
顧客、従業員、株主、
その他のステークホルダー
に報いる

株主の皆様へ

To Our Shareholders

国内を中心に受注が好調に推移し、 設立来初の年間100億円を達成いたしました。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2017年度は、国内外の主要展示会に出展するとともに、高生産性を追求した新製品の開発や技術提案型の営業活動を行うことで、新規ユーザー層の拡大と設備投資ニーズを積極的に掘り起こし、着実な受注につなげてまいりました。

その結果、当社の受注状況は国内を中心に好調に推移し、受注額は過去最高の年間100億円を達成いたしました。特に、産業機械関連企業や自動車関連企業からの活発な設備投資需要の取り込みに成功し、大口受注や複数台受注を多数獲得いたしました。また海外においても、米州や欧州、そして中国や韓国を始めとしたアジア地域の幅広い現地ユーザーからの受注が着実に増加してきております。

当期の業績につきましては、売上高は、7,363百万円(前期比8.2%増)となりました。利益面では、営業利益966百万円(前期比19.9%増)、経常利益956百万円(前期比20.8%増)、当期純利益653百万円(前期比33.4%増)となりました。

当期の配当につきましては、好調な業績を踏まえ30円増額の期末配当70円を実施することとなりました。

2018年度につきましては、国内においては産業機械関連企業や自動車関連企業を中心に幅広い業種からの需要が好調に推移しており、引き続き安定的な受注が見込まれます。

海外においては、現地営業スタッフを配置したことにより米州や欧州の需要が着実に増加してきており、今後は更なる拡大が見込まれております。

今後とも当社は、市場ニーズを捉えた製品の投入を軸に営業展開を図り、需要の発掘及び当社製品の普及拡大に注力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2018年3月

代表取締役社長 渡辺 登

設立来初の年間受注高100億円を達成した太陽工機の2017年度。ここでは渡辺社長への取材を通じて、昨年1年間の経営ポイントや今後の成長戦略についてご説明します。

変化を捉え柔軟に対応して
いくことを大切にしながら、
これからもお客様の
生産現場を支え続けて
まいります。

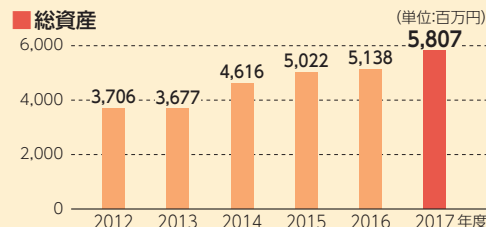
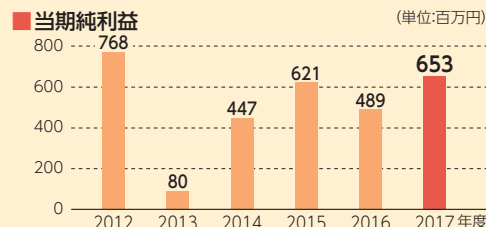
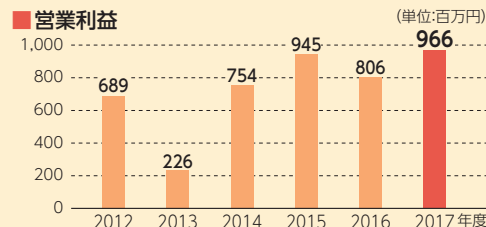
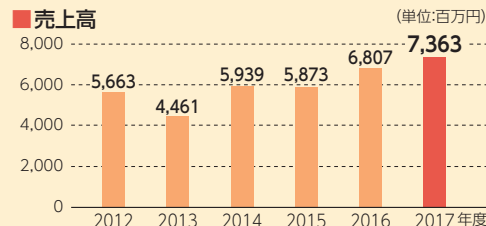
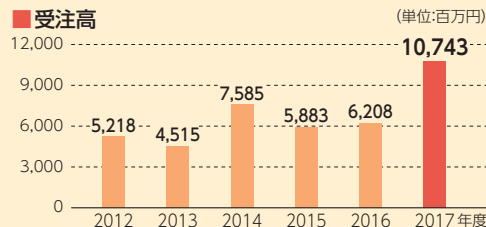


Q1 市場環境など昨年1年間の総括をお願いいたします。

A 2017年度の工作機械受注実績(日本工作機械工業会発表)が10年振りに過去最高を更新し、市況全体が好調に推移する中、当社が重要なターゲットとする2つの業種「産業機械関連」と「自動車関連」から大口・複数台受注を得ることができました。それを一因として受注額は初めて年間100億円の大台を突破し、過去最高となる107億43百万円(前期比73.0%増)を記録するなど、2017年度は太陽工機にとって良い1年であったと考えております。また、製造原価や販売管理費の厳正な管理により、一定の利益を安定して確保することができました。

財務ハイライト

※2015年度は決算期変更のため2015年4月1日から同年12月31日までの9ヶ月決算となっております。



(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

加えて昨年を総括するにあたり重要なキーワードとしては、「ロボット化の進展」を挙げることができるでしょう。分野を問わず多くの産業において現在、生産現場の自動化へ向けたロボットの導入が世界レベルで進んでいます。減速機等を始めとするロボットの重要なパーツの仕上げ加工に当社製品は適しており、国内主力ロボット関連メーカーからの大きな需要を獲得することができたことも業績好調の要因となりました。

Q2

受注高の伸びに対し、生産活動は順調に推移しましたでしょうか？

A

急速に受注が積み上がったこともあり、生産能力を月当たり売上金額で6億円から約7億円(台数で約20台)へ増強し、開発・設計・組立は当社で、部品調達・生産は地元パートナー企業と協力することで、生産活動を展開してきました。その結果、通期売上計画72億円に対してほぼ計画通りの73億円(台数で208台)の売上を達成し、大手お客様からのボリュームゾーンにも問題なく応えることができました。また受注ペースが想定よりも急速に積み上がったことにより、当第2四半期以降は四半期ごとに約10億円の受注残高が積み上がり、当期末時点での受注残高は金額63億円(台数で171台)となっています。

なお2018年12月期の生産については、組立スペースとして月当たり金額で9~10億円、台数で約25~28台分

を確保している状況です。今後に向けてまずは受注をいただいた機械を確実にこなし、組立スペースを有効活用しながら、①タイムリーな部品調達②地元パートナー企業との関係強化③人材の確保と社内のノウハウの標準化・習熟により生産効率と生産能力の一層の向上を図っていく方針です。

Q3

産業界でのさらなる技術革新やニーズの多様化に対して、どのように対応していかれますか？

A

今後に眼を転じた際に、一例ですが、「電気自動車」が普及してトランスミッションがなくなったり、飛行機の小型化が一層進んだら、太陽工機はどうなるのか」という声を聞くことがあります。もし仮にそれに近いような状況を迎えたとしても、当社は何ら動じることはありません。なぜなら、自動車はモーターの新しい使い方が出てくると予測され、飛行機の小型化が更に進んだとしても、必ずエンジンという部分は残るだろうと考えています。

何か変化が起こった時、次の新しいものが必ず出てきます。その変化に対して、どう対応していくか、どう捉えるか。お客様が生産現場でやりたいことは何であるのかをしっかりと聞いて、そのニーズに応える製品を提案していく、それがメーカーとしての使命だと考えています。今後もそれを経営及び製品開発の原点として、お客様との確固たる関係構築に努めていく所存です。

Q4

次期（2018年12月期）の見通しなどについてご説明願います。

A

次期におきましても、産業機械関連企業及び自動車関連企業向けを中心に幅広い産業での活発な設備投資需要を見込んでおり、暫く受注は継続するものと考えています。業績予想は、売上高8,000百万円、営業利益1,050百万円(営業利益率13.1%)、当期純利益700百万円(当期純利益率8.8%)を計画しています。現状の生産能力を考慮し、売上高80億円は最低ラインとして計画しています。また新規開発計画としては、2014年に開発し、航空機や建設機械、風力発電、工作機械等の中・大型部品の加工で高い評価をいただいている「CVGシリーズ」のラインナップ拡充を計画しており、秋口に「大型立形複合研削盤 CVG-13」を市場に投入する予定です。

Q5

株主還元の状況など、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A

このたびの期末配当は現状の業績を踏まえ、1株当たり70円(前期比30円増配)とさせていただきました。次期におきましては1株当たり配当金を74円とし、中間期と期末の2回に分けてお支払いする予定です。今後も増収増益を目指し、業績に連動する形で配当金の増額を検討してまいります。

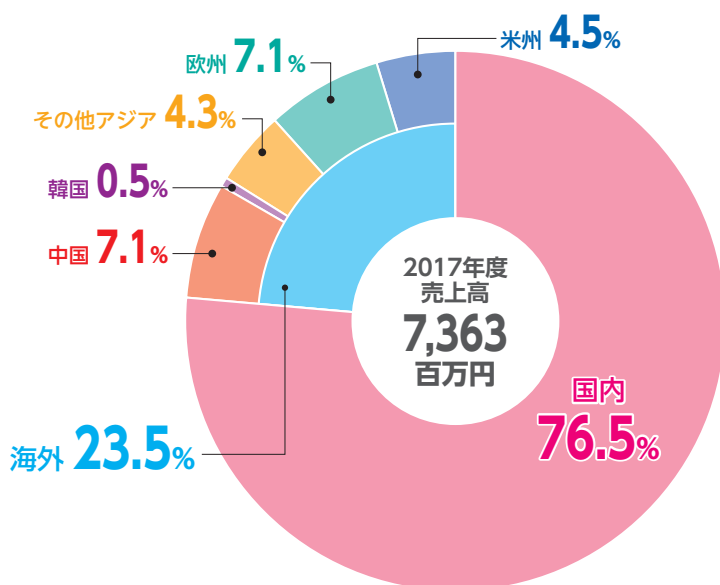
当社は、今までの研削盤とはまるっきり発想を変えた「立形研削盤」を開発したことで、研削盤市場に新たなジャンルを作り上げ、常にお客様のニーズを捉えた製品を開発することで、他社の追従を許すことなく、ここまで成長することができました。これは日本の産業を支える「産業機械関連」や「自動車関連」、「工作機械」等のお客様との信頼関係を継続してきたからこそだと考えております。今後も、お客様を第一に考え製品開発を行うことで持続的な成長を実現し、企業価値を高めるとともに、お客様の生産性の向上に貢献し続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、当社の更なる成長にご期待いただき、今後とも末長くご支援を賜りますようお願い申し上げます。

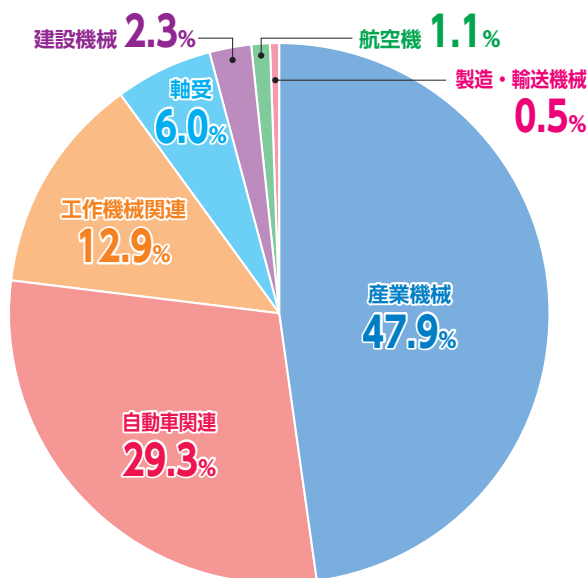


国内の産業機械関連企業や自動車関連企業から大口受注や

地域別売上構成比



業種別売上構成比



国内

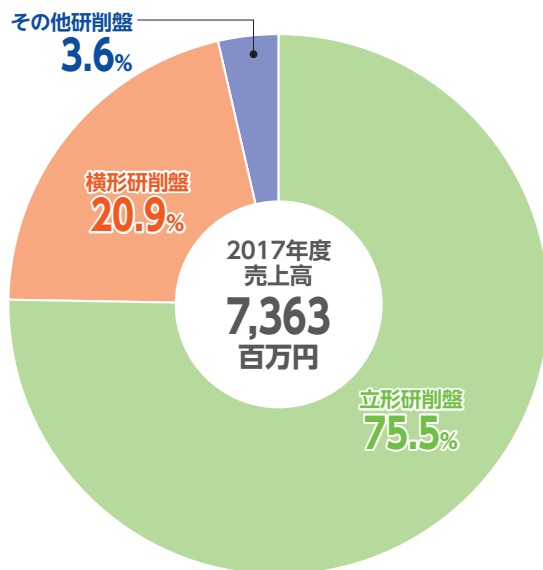
産業機械関連企業や自動車関連企業からの受注が好調に推移いたしました。特に産業機械関連企業や自動車関連企業からのリピート大口受注、工作機械関連企業や軸受関連企業からの複数台受注が売上増加に寄与いたしました。今後もリピートユーザーの設備投資需要を掘り起こすとともに、新規ユーザーの開拓に尽力してまいります。

海外

米州や欧州、中国を始めとしたアジア等、幅広い地域の現地ユーザーからの受注が順調に増加いたしました。また国内の自動車関連企業からの中国や米州向けの複数台受注が売上に大きく貢献いたしました。今後も、海外現地スタッフ及び駐在スタッフを中心に、海外営業活動の強化を行ってまいります。

複数台受注を獲得し、売上高は過去最高を更新いたしました。

品目別売上構成比



中・大型機を中心に幅広い種類の立形研削盤の受注が売上に貢献いたしました。

立形研削盤では、産業機械関連企業や工作機械関連企業からは中・大型機で標準機のNVGIIシリーズやハイスベックマシンであるNVGHシリーズを始め、Vertical Mate®シリーズ、高生産型のCVGシリーズの受注を多数獲得いたしました。また自動車関連企業から小型機のIGVシリーズの受注を多数いただき、売上増加に貢献いたしました。

横形研削盤では、自動車関連企業からのCGNシリーズのリピータ大口受注、工作機械関連企業からのIGHシリーズの複数台受注を獲得し売上に寄与いたしました。

今後も製品ラインナップを拡充するとともに、国内外の販路拡大に努めてまいります。

立形研削盤とは

立形研削盤は、部品を重力に対して垂直方向に回転させて加工する方式の工作機械です。当社がもつ独自技術により1989年に業界で初めて開発・製品化し、現在は主力製品として国内でトップシェアを占めています。加工する部品を垂直に設置するため、段取りが容易であるばかりが重力の影響を受けず加工精度に優れた特性をもち、工場内の省スペース化にも貢献します。

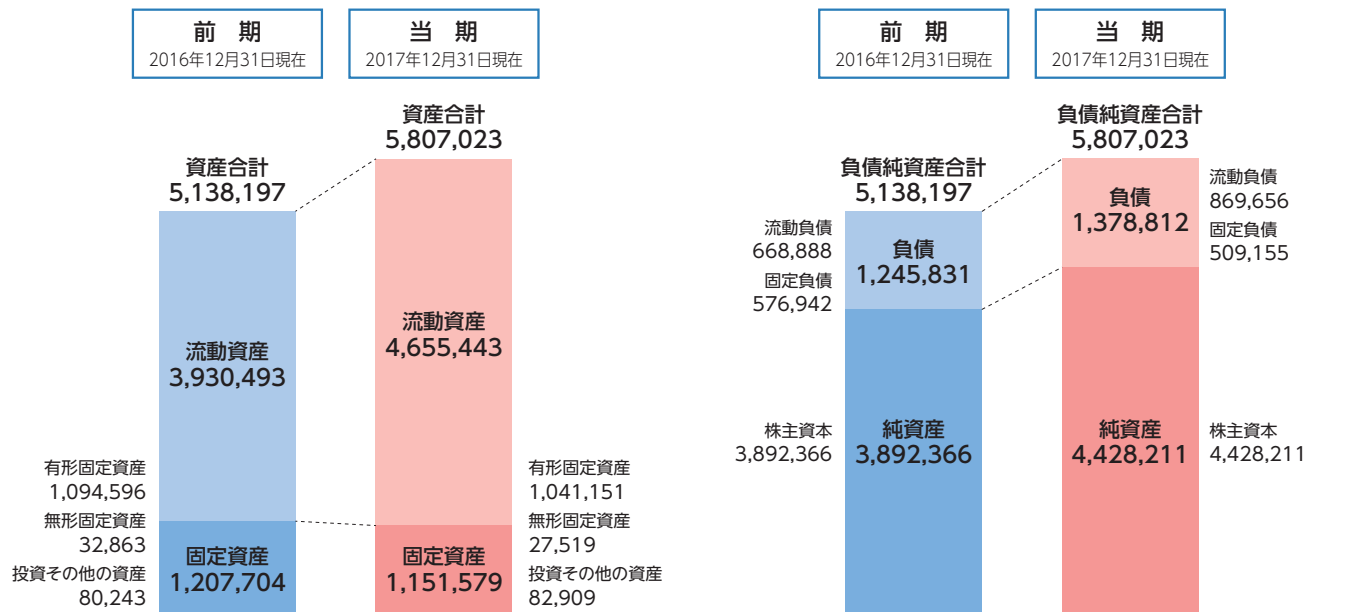


当社の研削盤が加工した製品は、こんなところで使われています。

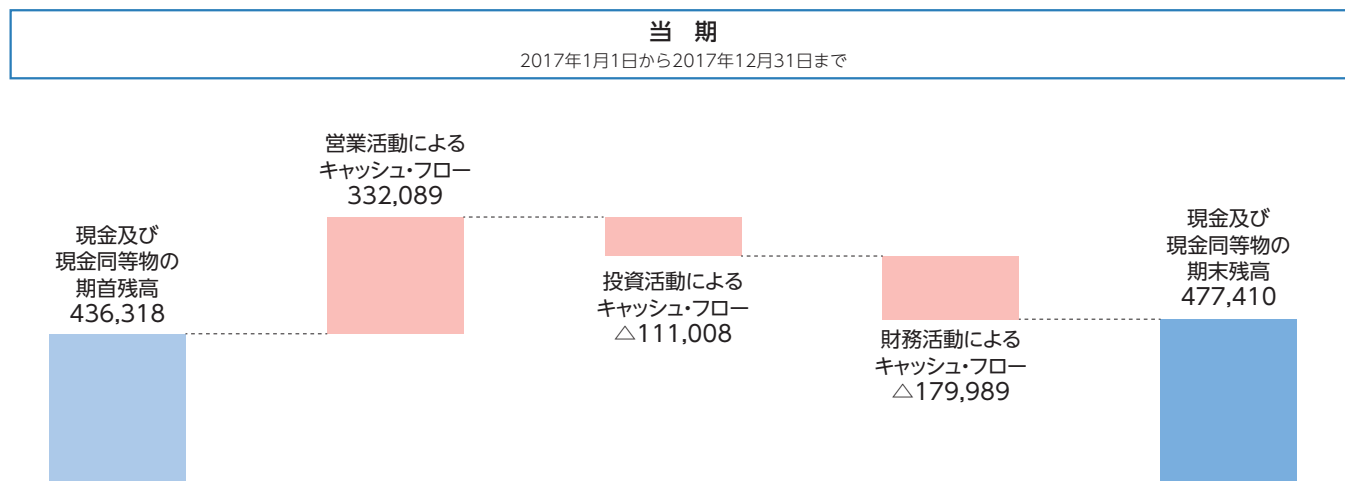


当社の研削盤は、自動車や航空機、建設機械におけるエンジン部品やシャフト、ベアリング、風力発電設備の変速機といった重要部品の加工に利用されています。0.001mm単位で要求される精度に応えて、低燃費の実現や振動の抑制などによる乗り心地、安全性、長寿命等品質の向上に重要な役割を果たしています。

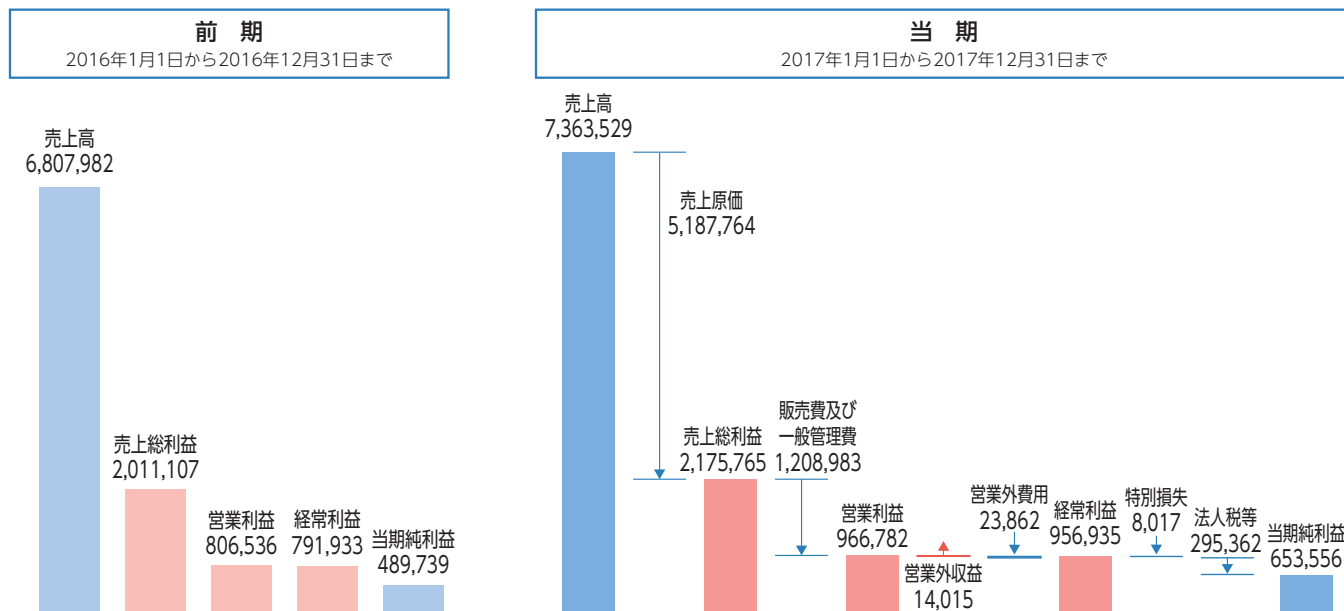
貸借対照表の概要 (単位:千円)



キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:千円)



損益計算書の概要 (単位:千円)



株主資本等変動計算書 (単位:千円)

当 期 2017年1月1日から 2017年12月31日まで	株 主 資 本								純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金	利益剰余金合計			
					繰越利益剰余金				
当 期 首 残 高	700,328	387,828	85,132	472,960	2,752,845	2,752,845	△33,768	3,892,366	3,892,366
当 期 変 動 額									
剰 余 金 の 配 当					△117,529	△117,529		△117,529	△117,529
自 己 株 式 の 取 得							△181	△181	△181
当 期 純 利 益					653,556	653,556		653,556	653,556
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	—	536,026	536,026	△181	535,844	535,844
当 期 末 残 高	700,328	387,828	85,132	472,960	3,288,871	3,288,871	△33,949	4,428,211	4,428,211

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

高生産型の立形研削盤をより多くのお客様に

2017年度は、小型量産部品加工向けの超小型立形研削盤「USG-3」並びに、エンジンカムや油圧関係のポンプ加工向けの立形高速カム研削盤「USG-2CL」の2機種を発表いたしました。2機種ともフロアスペースの効率化を追求することで、工場の生産性を飛躍的に高めております。

2017年度は、2014年の発表直後から高い評価をいただいているCVGシリーズの需要増加を見込み、加工する部品のサイズに合わせラインナップの拡充を行ってまいります。

今後とも当社は、お客様のニーズにマッチした製品を開発し、需要拡大に尽力してまいります。



超小型立形研削盤
USG-3



立形高速カム研削盤
USG-2CL

国内外の主要展示会に出展

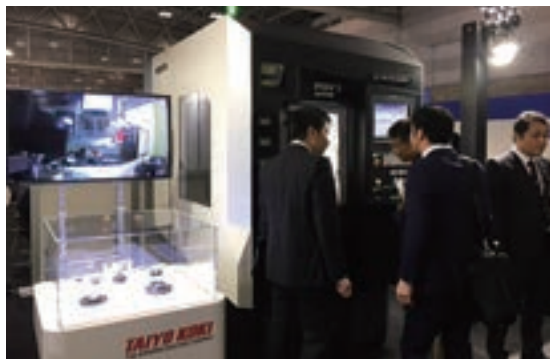
EMO Hannover 2017

2017年9月18日～23日の6日間、ドイツのハノーバーにてEMO Hannover 2017が開催され、立形複合研削盤「CVG-6」を出展いたしました。海外販売の拡大に向け、世界各国のお客様に当社製品「立形研削盤」の技術力をアピールする絶好の場となりました。会期中には受注を獲得するとともに、多数の引合をいただくことができました。

メカトロテックジャパン2017

2017年10月18日～21日の4日間、名古屋のポートメッセなごやにてメカトロテックジャパン2017が開催され、同年6月に発表した超小型立形研削盤「USG-3」、立形高速カム研削盤「USG-2CL」を始め、高生産型の立形複合研削盤「PGV-3」、汎用立形複合研削盤「Vertical Mate®55」の全4機種を出展いたしました。当社ブースには前回は上回るお客様に会場いただき、当社製品の研削技術に対して高い評価をいただくことができました。また会期中に多数の受注を獲得いたしました。

当社は今後とも展示会の出展数を増やし、国内のみならず海外での当社製品の更なる拡販を推し進めてまいります。



会社の概要 [2017年12月31日現在]

Corporate Data

会 社 名	株式会社太陽工機 (TAIYO KOKI CO., LTD.)
資 本 金	700,328,200円
設 立	1986年3月14日
主な事業内容	工作機械(各種研削盤)の開発・製造及び販売
従 業 員	199名
ホームページ	http://www.taiyokoki.com
本 社 所 在 地	新潟県長岡市西陵町221番35
関 連 会 社	DMG森精機株式会社

役 員	代表取締役社長	渡 辺	登
(2018年3月27日現在)	専 務 取 締 役 棚 橋 基 裕	常 務 取 締 役 小 林 秋 男	常 務 取 締 役 渡 辺 剛
	取 締 役 高 村 寛 義	取 締 役 加 藤 祐 司	取 締 役 森 雅 彦
	取 締 役 間 瀬 宏	常 勤 監 査 役 大 野 和 彦	監 査 役 大 野 義 彰
	監 査 役 佐 藤 壽 雄		

株式の状況 [2017年12月31日現在]

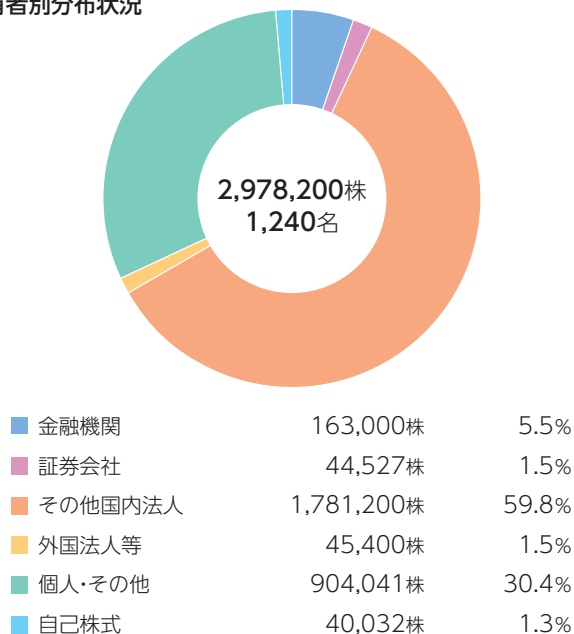
Stock Data

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,978,200株
株 主 数	1,240名
大 株 主	

所有者別分布状況

大株主(自己株式は除く)	持株数(株)	持株比率(%)
DMG森精機(株)	1,494,000	50.84
(株)渡辺	152,000	5.17
渡辺登	148,000	5.03
(株)井高	108,000	3.67
太陽工機従業員持株会	100,700	3.42
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	74,700	2.54
(株)第四銀行	40,000	1.36
(株)三井住友銀行	40,000	1.36
秋山峰延	37,600	1.27
DEUTSCHE BANK AG LONDON 610	25,700	0.87

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(40,032株)を除いて計算しております。



株主メモ

事業年度 1月1日～12月31日

**期末配当金
受領株主確定日** 12月31日

**中間配当金
受領株主確定日** 6月30日

定時株主総会 毎年3月

**株主名簿管理人
および特別口座の
口座管理機関** 三井住友信託銀行株式会社

同連絡先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
TEL 0120-782-031 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所JASDAQ (スタンダード)

公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL
<http://www.taiyokoki.com>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他の
やむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公
告いたします。)

ホームページのご紹介

<http://www.taiyokoki.com>

当社ではホームページにて
当社の企業情報を随時開示
しています。製品紹介、各種
リンク、サポート情報等を掲
載しているほか、IR情報のサ
イトでは決算短信等をご覧
いただけます。



ネットワーク

<国内拠点>

本社・工場

〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221-35
TEL. 0258-42-8808 (代) FAX. 0258-42-8810

東部営業所

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-340 ウノビル7階
TEL. 048-658-8701 FAX. 048-658-8702

中部営業所

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-35-16
(DMG森精機株式会社内)
TEL. 052-563-1270 FAX. 052-563-1310

西部営業所

〒564-0052 大阪府吹田市広芝町4-1 江坂・美貴ビル8階
TEL. 06-6378-7166 FAX. 06-6378-7167

<海外拠点>

中国 (北京)

Room 1605, Tower B, Global Trade Center, No.36 North Third
Ring Road East, Dongcheng District, Beijing 100013, China
TEL. +86-10-5825-6006 FAX. +86-10-5825-6007

中国 (上海)

No.178 West Yindu Road, Songjiang District, Shanghai
201612, China
TEL. +86-21-6764-8876 FAX. +86-21-6764-9033

アメリカ (シカゴ)

2400 Huntington Boulevard Hoffman Estates, Illinois 60192
TEL. +1-847-593-5400 FAX. +1-847-593-5433

ヨーロッパ

Sulzer-Allee 70 CH-8404 Winterthur, Switzerland
TEL. +41-58-611-5000 FAX. +41-58-611-5001

タイ (アマタナコン)

700/146 Moo 1, Tambol Bankao, Amphur Panthong,
Chonburi 20160, Thailand
TEL. +66-38-468720-1 FAX. +66-38-468723